

患者データ (急性段階) に基づくAFO*
N.A.P.® 歩行分類によるAFO
検診によるAFO/KAFO

www.orthosis-configurator.com

* 患者データ (急性段階) に基づくAFOでの治療の場合は、p. 1のみに記入してください。

装具士: _____ 会社: _____
顧客番号: _____ データ: _____

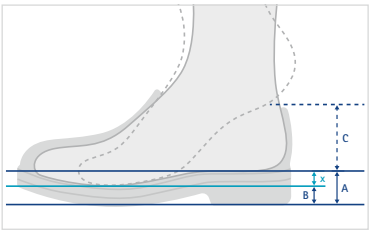
患者の個人データは、注文処理と統計学的評価のために保管・使用されますのでご了承ください。
装具の荷重容量の計算は、ここに記入されたデータに関連付けて行われます。このデータは、装具を利用しているうちに変わることがあります。この装具療法シートに記入する際は、今後考えられる変化を考慮に入れてください (例: 体重変化、筋肉強度の成長や変化)。

患者データ

患者氏名	生まれた年	体重	脚
		kg	左脚 右脚
データプライバシーの目的のため、 下の名の最初の2文字と、 名字の最初の2文字のみを記入し てください。	性別	身長	左右の足で以下の点が異なっている 場合は、装具療法シートを2枚使用し てください。
	女性 男性 その他	cm	

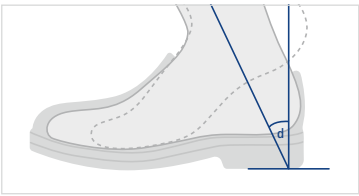
靴の測定

靴サイズ (EU) (足の寸法 + 1.5cm) x 1.5



踵高さ (A)	ピッチ (x = A - B)
mm	mm
靴底厚さ (B)	高さ補償 (C)
mm	mm

上側足関節の運動範囲



背側 底側

活動レベル



1. 屋内歩行



2. ある程度の屋外歩行



3. 無制限の屋外歩行



4. 特に高強度の無制限屋外歩行

装具の要件



1日当たり歩く階段の段数

< 10 11~50 > 50



1日当たり歩く高低差 (m)

< 10 11~50 > 50



患者は、片手で安全にシステム足関節に手が届く。

はい いいえ

患者データ (急性段階) に基づくAFO*

N.A.P.® 歩行分類によるAFO

検診によるAFO/KAFO

* 患者データ(急性段階)に基づくAF0での治療の場合は、p. 1のみに記入してください。

N.A.P.[®] 歩行分類によるAFO

N.A.P.® 歩行分類によるAFOフィッティング用

N.A.P.® および分類による歩行タイプ

膝関節	過伸展		過屈曲	
矢状面				
前頭面				
足関節	内反	外反	内反	外反
歩行タイプ	タイプ1a	タイプ1b	タイプ2a	タイプ2b

** N.A.P.はRenata Horstの登録商標です。

装具データ

患者との面談中のメモ（例えば以前の治療など）

[illegible]

検診によるAFO/KAFO

筋肉強度 (Jandaによる)

0 (ゼロ) 1 (わずか) 2 (不良) 3 (可) 4 (良) 5 (正常)

股關節屈曲

0 1 2 3 4 5

膝關節伸展

0 1 2 3 4 5

背屈

0 1 2 3 4 5



股關節伸展

0 1 2 3 4 5

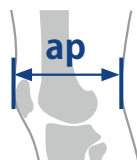
膝關節屈曲

0 1 2 3 4 5

底屈

0 1 2 3 4 5

ap測定値(KAFOの膝の機械的旋回点)



mm

患者データ (急性段階) に基づくAFO*
N.A.P.® 歩行分類によるAFO
検診によるAFO/KAFO

www.orthosis-configurator.com

* 患者データ (急性段階) に基づくAFOでの治療の場合は、p. 1のみに記入してください。

膝レベルの不安定性/変形

生理学的位置

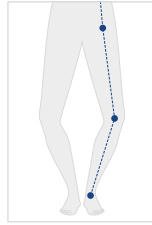
内反変形

最大

装具装着時の
推定

○

○



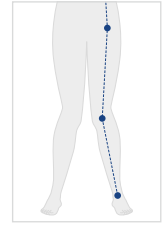
外反変形

最大

装具装着時の
推定

○

○



生理学的運動範囲

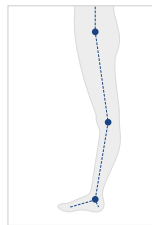
過伸展

最大

装具装着時の
推定

○

○



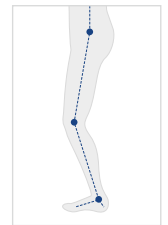
伸展の制限

最大伸展

装具装着時の
推定

○

○



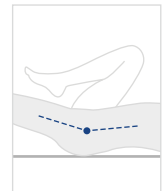
股関節レベルの不安定性/運動制限

生理学的運動範囲

伸展の制限

最大伸展

○



検診時に立つことができるか (補助が必要な場合も含む)

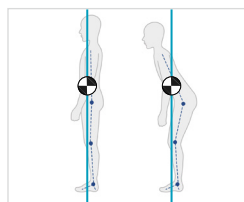
検診は患者が (少なくとも部分的に) 立った状態で行うことができる。 はい いいえ



鉛直線の経路 (身体の重心から)

鉛直線が膝の回旋点を通る、または膝の回旋点より前を通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあります。これは例えば、身体を前に曲げることで補償することができ、また装具で補正することが可能です。



鉛直線が膝の回旋点より後ろを通る。

これは、重度の伸展制限の場合に起こることがあり、装具で補償や補正をすることはできません。

